

鹿島の鬼退治

むかし、むかしのこと、鹿島のあたりに、恐ろしい鬼が棲んでおりました。鬼は、ひん

ばんに村を襲っては、家畜や食料を奪い、そのうち、家に火を放ったり、人にまで危害を加えるようになりました。村人達は困り切って、「このままでは、村は全滅だ。だれか、鬼を退治してくれる者はいないだろうか。」と、相談しておりました。

すると、村の若者の一人が、「よし、俺が鬼を退治して、きつと

首を持ち帰ってくるぞ。」と言って、勇んで出かけて行き

ました。ところが、その若者は、とうとう村には帰っ

て来なかったのです。そこで、村おさは、近隣

に、「鬼を退治してくれた者には、お礼を差し

上げます。」というおふれを出しました。

その甲斐あって、力のありそうな者があ

ちらこちらから続々と集まり、鬼退治に向

かったのですが、やはり、誰一人戻っ

て来ませんでした。村おさが、「もう、

鬼退治はやめよう。」と言いだしたその

矢先、鬼は、他の村々にも出没して暴

れ出したのです。

ちょうどその頃、武甕槌命という神

様が、悪い者をこらしめるため常陸国を

まわっておりまして。神様は、鹿島でこ

の話を聞き、「私の刀をもってすればきつと

鬼に勝てるだろう。」と自信満々で鬼退治に向

かいました。そして、見事に鬼の首を取って来た

のです。神様は、「鬼塚」をつくり、鬼のなきがらを埋

めて供養し、また、鬼と戦って死んだ人たちのために社を

建てたと言われています。

その後、神様は、この地方の守り神として祀られ、その社が鹿島神宮なのだそうです。

行方郡北浦村には鬼越貝塚がありますが、この鬼越と言う地名にも同じような話が残っています。

